株式会社 JIN

#働く

平和構築事業で南スーダンからの研修員と共に（講道館にて）

途上国の人々に真摯（しんし）に向き合い続ける

平和は実現できるんだ――、内戦で傷ついた南スーダンの人々に、そんな希望が芽生えたのも、JINの地域に根ざした長年の活動があったからなのだろう。

同社は、南スーダンの独立後から農業や人材育成分野を中心に事業を実施しており、近年は「スポーツと平和」という新しい領域でも存在感を示している。さまざまな国や地域で、現地の人々に真摯に向き合い続けている企業であり、その姿勢は特筆に値する。例えば、予算や日数が決定しているプロジェクトでも、目先の利益や短期的な効率性ではなく、実際の現場や住民の状況を優先し、本当に必要だと判断すれば、会社の〝持ち出し〟で予算を確保し、時間をかけて活動することも惜しまない。また、社員が想い入れを持っている地域で自ら企画した取り組みを業務の一環として実施することも可能で、長期的な視野で会社が支援していくこともできるという。

JINは、途上国に寄り添いながら、腰を据えて努力を続けていく人材には最適な場だといえる。

Company Info 企業情報

▶得意な事業分野

- 農業・農村開発
- 文化・スポーツ
- 平和構築
- ジェンダー
- 保健・医療

▶得意な国

- ウガンダ
- 南スーダン
- ナイジェリア
- ネパール
- キルギス

▶応募資格

中途採用有（未経験者の採用あり）

設　　立：2011年2月1日
資 本 金：1,500万円
従 業 員：24人（2023年4月現在）
本　　社：埼玉県さいたま市
T e l：048-650-0400

Carrier Voice 社員の声

Q 仕事のやりがいは？

A「現地の人がやりたいこと」のサポート

自分が何をしたいかではなく、「現地の方々が何をしたいのか」を一番に考えています。彼ら自身の学校やアカデミーなので、日本人主導で進めるのではなく彼らの考えやアイデアを尊重し、その上でどのように後押しできるかを考えながら現地の人と共に仕事することがやりがいにつながっています。

Q この業界を選んだきっかけは？

A 紛争などが原因で学べない現実に衝撃

アメリカの大学の国際児童福祉の授業で、南スーダンで教育支援を行うNGOの代表の話を聞き、紛争や女性だからという理由で学ぶことができないことに衝撃を受けました。代表に連絡を取り、夏休みに南スーダンに渡って活動に参加した経験が原点となり、国際協力の世界に進もうと決意しました。

Q 今後の目標は？

A 多様な文化を将来世代に伝承したい

南スーダンをはじめ、多くの民族・文化が共存している一方で、それによる問題を抱えている国々があります。民族同士が互いに敬意を払いながら協力し、多様で豊かな文化を後世につないでいくために尽力したいという夢があるので、会社の支援を得ながら、その実現に人生をかけていきたいです。

Q この会社を選んだ理由は？

A 現地に寄り添いながら紛争影響国支援を

大学院で、紛争影響国に貢献したいという思いで紛争と民族について学んでいましたが、新型コロナで現地調査ができず、研究継続が難しくなりました。その時、JINの採用情報を知り、現地の人に寄り添って仕事をする姿勢が強く感じられたので、同じ思いで仕事がしたいと入社しました。

Q 仕事内容は？

A スポーツを通じ平和を促す事業に従事

JICAが南スーダンで実施している「スポーツを通じた平和促進プロジェクト」を担当しています。学校の体育を通じた相互理解促進やスポーツアカデミーと地域との交流の拡大などを図っています。大学や大学院で、学校内の人間関係や民族の違いの影響などを学んだことも生かしています。

事業部
佐野 耕至 さん
Sano Koji

南スーダンの全国スポーツ大会の裏方として

Career Path キャリアパス

23歳
大学2年生で国際協力の道を決意し、米コロンビア大学教育大学院（修士課程）に入学

28歳
日本の国際協力企業で3年間勤務した後、英LSE大学院（修士・博士一貫課程）へ

30歳
JINに入社。南スーダンでスポーツを通じた平和構築事業に従事

©国際開発ジャーナル社